



里山から環境問題を読み解く

オンライン講座 里山学



講師：永幡嘉之（自然写真家、当協会理事）
動画を毎週金曜に更新（当協会会員限定）
大学生向けのオンライン講座を毎週木曜に開催



特定非営利活動法人
日本チョウ類保全協会

里山学が目指すもの

1. 自然と文化の両面から深層を考える

里山の本質は、自然環境と人の文化の両面から読み解くことで、見えてきます。

2. 目にみえる環境問題

データで見る地球温暖化とは異なり、生きものの変化は目に見える形で表れません。環境の変化を肌で感じることで、日常での視野が広がります。

3. 持続可能だった時代を知る

里山は地域内で自給自足が完結していた、究極の持続可能な資源利用でした。それを知ることで、将来を見据えた持続可能な社会を考えます。

4. 自然再生の現場に出てみる

各地で里山管理の技術を教わり、受け継ぎ、自然再生を進めています。

5. 同世代の輪を広げ、交流を深める

里山学を通して、これからの時代を担う若者が集まり、未来を考えます。

■オンラインは 大学生限定

詳細は

satoyamagaku@gmail.com

までお問合せください。

■当協会会員に 一般公開

当協会会員の皆様は、どなたでも録画をご覧いただけます（毎週更新）。動画のURLは、会員メーリングリストで定期的にご案内します。






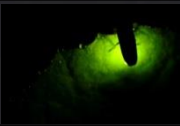



2022年4—5月

毎週金曜更新








4月	7日	春のツキノワグマの行動		残雪の上でツキノワグマが餌を食べる。春の山で見られるツキノワグマの痕跡から、彼らの暮らしを描き、クマ狩りの文化を知る。
	14日	木々の芽吹き		木々の芽吹きから1週間だけ、森はさまざまに彩られ、表情が豊かになる。芽吹きから生物の多様性を考える。
	21日	カタクリの1年		東北地方ではクリ林に、春にカタクリのお花畑が出現する。人がクリを植え、建築に利用し、芽吹きが遅いことで、この光景は生まれた。
	28日	春の草原の生きもの		川の堤防ではヒバリが鳴き、火入れ後の草原はワラビ採りの場所になる。ハチを通して、草原に広がる生きもの世界を描き出す。
5月	5日	若葉の森の生きもの		里山の雑木林は生きものに満ちている。若葉を食べるオトシブミやチョウなど、普段は目にとまらない虫たちの暮らしを紹介。
	12日	田植えと水田の生きもの		水田に水が張られると、代掻きと田植えが始まる。そこにはアキアカネやカエルの仲間など、水田で繁栄している生きもの世界がある。
	19日	マメコバチとサクランボ		リンゴやサクランボなどの果樹園では、マメコバチというハチが飛び回る。植物の受粉の仕組み、在来種が養蜂に使われた歴史を紹介する。
	26日	山菜を採る		山菜を食べられるように加工するまでには、多くの知恵が凝縮されている。ゼンマイを例に、山菜を食べる文化を読み解く。



2022年6—7月

6月	3日	ため池と水路の生きもの		水田や溜池の水は動かないが、水路の水は流れている。水の流れ方の多様性から、そこに暮らす生物の多様性が生まれる。
	10日	ササの葉に開いた穴		ササの葉に空いた「ミシン穴」は、いったい何が空けたものだろう。ウェブ上に答えはない。観察眼を研ぎ澄ますなかで考えよう。
	17日	初夏の草原の花と生きもの		かつては牛のために毎日草を刈り続けた。草刈りが続いている草原には、アリに育てられるクロシジミなどの生きものが現れる。
	24日	ホタルをめぐる物語		水路に発生するゲンジボタルは初夏の風物詩だが、近年では放流も増えてきた。ホタルの生態から放流の問題までを広く解説。
	31日	神社の森の歴史		里山の雑木林は人が伐り、薪として利用してきた。一方、神社の森はいちども切られていない。セミを手がかりに森の歴史を読み解く。
7月	8日	養蚕とクワ畑の生きもの		かつて養蚕のために全国に広がっていたクワ畑は、生きものに満ちた場所だった。消えゆく里山の土地利用と生物多様性をたどる。
	15日	樹液の出る木		雑木林の木々の中でまず「クヌギとコナラ」を覚えよう。夏にはカブトムシやクワガタムシが集まり、秋にはドングリがなる。
	22日	休み		
	29日			


毎週金曜更新

8月	5日	ミンミンゼミの羽化		夏の闇夜、セミは決まった時間に一斉に羽化している。身近に見られるセミの生態や、分布の不思議さを紹介。
	12日	晩夏の草原の生きもの		真夏から秋にかけての草原の利用と、秋の七草を盆花にした歴史、そこに見られる草原の生きものを紹介。
	19日	砂浜の生きもの		砂浜には特有の動植物がいる。カワラハンミョウやハマダンゴムシの生活を通して、塩分や昼間の熱への適応を探る。
	26日	湧き水		水はどのような場所に湧くのか、人はそれをどのように利用してきたのか、地形と生きものと、人の生活への利用を重ねる。
9月	2日	秋の鳴く虫		河原などで見られるスズムシ、マツムシ、カンタンなどの秋の鳴く虫の顔ぶれと、その声を楽しんだ人々の文化を紹介。
	9日	里山の姿		里山とは、水田、畑、草原、森林などが組み合わせり、集落ごとに自給自足の生活が可能な資源利用の知恵だった。
	16日	ツキノワグマの夏から秋の行動		ツキノワグマが木の実を食べたクマ棚は目立つ。山で見る痕跡から、夏から秋にかけてのツキノワグマの行動を読み解く。

2022年 8—9月

毎週金曜更新



9月	23日	ゲンゴロウを調べる		ゲンゴロウ類やトンボ類を調べていくなかで、「ため池の生きものはどこから来たのか」という歴史が見えてくる。
	30日	アカトンボ		秋に水田の上をたくさん飛び交うアキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボなどの見分け方と、それぞれの生態の違いを紹介。

2022年10-11月

10月	7日	イネの干し方と藁の利用		稲の干し方は地域によって様々だ。この文化には、人々の空中湿度を読む力が表れている。
	14日	キノコと生きものの世界		里山と原生林とでは、生えるキノコの顔ぶれも大きく違う。キノコと虫の関係から森の生態系を覗いてみよう。
	21日	ブナの「あがりこ」		人が炭焼きに使って奇怪な姿になった「あがりこ」。山間部では重要な現金収入になってきた炭焼きの歴史と技術を紹介。
	28日	ため池の外来種と再生		ため池は外来種の温床になり、ゲンゴロウ類は絶滅寸前になっている。その現状と、最前線での取り組みを紹介する。
11月	4日	ナラ枯れとはどのようなものか		ナラ枯れは社会問題になるが、森の若返りを促している側面もある。生態系のなかで起こっている現象を解説する。
	11日	マイマイカブリを調べる		マイマイカブリは翅が退化して飛べないため、色や形が地域によって異なる。その変化から日本列島の歴史を考える。
	18日	草原と草の利用		ウシの餌、茅葺き屋根などの草の利用方法を体系的に紹介し、海外との比較から日本の里山の特徴を浮かび上がらせる。
	25日	里山の草原の成り立ち		日本の天然の草原は海岸、扇状地、山の稜線、火山などに存在していた。人がどのように利用してきたのかを読み解く。

毎週金曜更新









2022年12月 — 2023年1月

毎週金曜更新

12月	2日	森の利用の歴史		人は燃料として薪を使ってきた。さまざまな森の利用法を紹介するとともに、木の利用がいかに失われてきたのかを読み解く。
	9日	増えすぎたシカと森の荒廃		西日本の多くの場所では、増えすぎてしまったシカによって、森の下草も低木も消えた。生物多様性に与えた影響を紹介。
	16日	屋敷林の生きもの		民家を囲む屋敷林に暮らすフクロウやチョウから、人が集落を作る前からそこに暮らしていた生きものの顔ぶれをたどる。
	23日	気候の変化を調べる		温暖化といわれるなかで、生きものの北上や、季節進行の早まりなど、身のまわりの動植物に起きている変化を知る。
	30日	雪の上の動物の足跡		雪の上にはさまざまな動物の足跡が残り、普段は見えない姿が浮かび上がる。かつては雪が降ると狩猟が行われていた。
1月	6日	ヤドリギと雪虫		冬になると、木々の枝に着生したヤドリギが目立つ。ヤドリギの生態や、雪の上でみられる生きものを紹介。
	13日	標本から読み解く過去の豊かさ		70年前に採集された昆虫標本から、今では都会になった場所にも雑木林があったことなど、過去の自然の豊かさを知る。
	20日	写真から読み解く過去の豊かさ		生きものの写真は今も昔もたくさんあるが、里山の環境が分かるような写真は多くない。写真での記録方法を考える。
	27日			休み

2023年2-3月

毎週金曜更新

	3日			休み
2月	10日	柱に使われる樹木		古民家は、周囲の山の木だけで建てられた。樹種の選び方、製材方法、漆の塗装など、木材の利用を民家から読み解く。
	17日	ミツバチの養蜂		ミツバチを飼う文化は世界中にある。日本で行われてきた伝統的な方法を、世界各地との比較のなかで紹介する。
	24日	津波は生態系をどう変えたか		東日本大震災による津波で、海岸の生態系は大きく姿を変えたどのような現象が起こったのかを、簡潔に解説。
3月	3日	復旧事業は生態系をどう変えたか		津波跡地では多くの絶滅危惧種が大繁殖していたが、復旧事業によって姿を消した。人間の手による環境の変化を解説。
	10日	原発事故は自然環境をどう変えたか		原発事故により放射性物質が広がった。人が居住できなくなったことで、里山の自然環境には起こった変化を解説する。
	17日	太陽光・風力発電は生態系をどう変えるか		全国で進む太陽光発電・風力発電には、どのような問題があるのだろうか。ヨーロッパと土地利用を比較して考える。
	24日	ギフチョウとカンアオイを調べる		生きものが「なぜここにいるのか」という問いは、好奇心の原点だ。ギフチョウの食草カンアオイの分布の謎を解き明かす。
	31日	草原の火入れ		見渡す限りの草原を燃やす火入れは、早春の風物詩だった。その目的、歴史、火を操る技術、消火技術を紹介する。